

肩腱板断裂について

かたけんぱんたんれつ

ズキズキする夜間痛が特徴 手術のタイミングを見極めて

外傷だけでなく 加齢による変性で発症

肩関節は人体の関節中で最大の可動域を有する関節で、鎖骨、肩甲骨、上腕骨から成り立っています。肩甲骨から上腕骨に接続する棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋という4つの筋肉の腱が複雑に合わさった部分を「腱板」と呼びます。

「肩腱板断裂」は文字通り肩の腱板が切れることです。外傷のほか加齢による変性で起きることがあります。夜、寝付くときに肩がズキズキ痛む「夜間痛」が特徴です。五十肩とは全くの別物ですが、肩に痛みがあつて五十肩と思つて来院された方が、検査の結果、肩腱板断裂と判明することもあります。

腱の全層が断裂する「完全断裂」の場合、断裂の程度により小断裂（長径1センチ未満）、中断裂（長径1センチ以上3センチ未満）、大断裂（長径3センチ以上5センチ未満）、広範囲断裂（長径5センチ以上）があります。

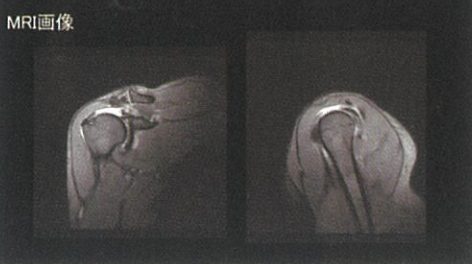
一部の層が断裂する「不全断裂（部分断裂）」には、滑液包面断裂（表層断裂）、関節包面断裂（深層断裂）、腱内断裂があります。

MRIで確定診断 痛くなければ保存療法も

肩痛で来院された方にはまず問診を行い、触診で可動域を確認しながら診察を進めます。画像検査では当院ではX線検査とMRI検査を主体に診断を行っています。

X線検査で骨と骨の間の距離が短

腱板断裂の診断(画像所見)



▲肩腱板断裂のMRI画像。左が正面から、右が側面から見たところ。白く見える部分が断裂した箇所

くなつていたり、骨から骨棘（じつげきく）というトゲ状のものが伸びていたりするときは断裂を疑います。ただ基本的に、X線検査だけでは肩腱板の異常を見つけないので、MRI検査で確定診断を行います。

治療については「手術をするかしないか」を慎重に検討します。断裂が

社会医療法人玄真堂
川島整形外科病院
診療部長

佐々木 聡明



profile

ささき・としあき/平成12年琉球大学医学部卒業。平成25年より川島整形外科病院勤務。専門領域は整形外科一般、外傷一般、肩関節疾患。日本整形外科学会所属。

あるからといって必ず手術をしなればならない訳ではありません。断裂があつても肩を動かさせていて痛みがなければ生活はできますので「保存療法」を考えます。痛みの強い時期は肩を動かさないよう安静にし、薬を飲んだり、痛み止めの注射やヒアルロン酸注射を使つたりしたうえで、できる範囲でリハビリを行います。

体への侵襲が少ない 関節鏡視下手術が主体

どのタイミングで手術に踏み切るかの判断には熟慮が必要です。入院できる状態かどうかなど、患者さんのバックグラウンドをよく考えうえで、話し合いながら治療法を決めていきます。

断裂が起きるきっかけである「受傷起点」がどこかにあったかが問題となります。外傷で断裂が起きたのなら早めに治すのがよいでしょう。加齢などによる変性で断裂を起こした場合、まず保存療法を選んで1〜3カ月くらい様子を見ます。それでも痛みが取れず力も入らないという場合は手術を考えます。特に早く治したいという要望がある場合は早く手術に踏み切ることもあります。

手術には「関節鏡視下手術」のほか、完全に切開する「オープン法」、関節鏡である程度行った後で腱を最終的に縫うときに切開する「ミニオープン法」があります。当院では関節鏡視下でできる場合は全て関節鏡視下で実施しています。

手術の際には全身麻酔とブロック麻酔を行います。体位は、患者さんが上半身を起こしてビーチチェアに座ったような姿勢にし、肩から腕を自然に下ろした状態で実施します。関節鏡下では5〜7カ所ほどの小さな穴を開けてそこからカメラや器具を入れますので、体への侵襲は最小に抑えられます。腱と腱をただ縫い

合わせるだけでは強度が弱いいため、アンカーというネジ状の器具を骨にねじ込んでそこに縫い付ける方法をとります。術後は肩の安静な状態を保つように「肩外転装具」を1〜2カ月間ほど装着します。再断裂を起こさないように保護したうえでリハビリを行うていきます。

広範囲に及ぶ断裂の場合や、断裂から時間がたつて筋肉や腱板がやせ細っている場合などは関節鏡視下手術による一次修復では限界があります。そういう場合は腱板を部分的に修復する方法や患者さん自身の大腿筋膜で覆うパッチ法、そのほかの筋腱を移行する方法などがあります。2014年からは「リバーズ型人工肩関節全置換術」も行われるようになりました。ただこれは最終手段と考え、年齢などで、年齢などの適応条件を選んで実施します。



▲1981年の開設以来、整形外科の専門病院として地域医療を支える。回復期リハビリテーション病棟も昨年完成

患者さんに一言

五十肩といわれて治療を続けていても、痛みや動かせないなどの症状が長引いてなかなか治らないときは、肩腱板断裂をはじめさまざまな疾患が隠れている場合があります。そういう方はぜひ検査にご来院ください。



診療部長
佐々木 聡明



押さえておきたい チェックポイント

痛みのない肩腱板断裂に要注意

肩腱板断裂があっても日常生活に支障のある痛みや機能障害を自覚しない場合があり、これを「無症候性断裂」といいます。50歳以上になると加齢による変性で腱板が切れやすくなり、こうした自然断裂の場合は痛みを伴わないことがよくあります。群馬県片品村の住民検診で、肩の痛みを全く感じない、50歳以上の一般住民の約4分の1が肩腱板断裂を起こしていたという調査もあります。2015年現在の日本の人口統計に基づいて推定すると、日本人の約1900万人に肩腱板断裂が潜在的に存在することになります。痛みのない断裂もあるということを知っておいていただきたいと思えます。

DATA

げんしんどう かわしま

社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院

理事長 川島 真人 院長 川島 真之

tel.0979-24-0464

<http://kawashimahp.jp/>

川島整形外科病院 tel.0979-24-0464

理事長 川島 真人 院長 川島 真之

- 住所 / 中津市宮夫17
- 駐車場 / 196台(共有)
- アクセス / JR中津駅からバスで約10分
宮夫バス停から徒歩0分
- 受付時間 / 火・金・土曜9:00~12:00(予約制) ※救急患者は24時間体制 ※脳神経外科は第2・第4水曜9:00~12:00
- 休診日 / 土曜午後、日曜、祝日
- 診療科目 / 整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・脳神経外科

かわしまクリニック tel.0979-24-9855

所長 永芳 郁文

- 住所 / 中津市宮夫11-1
- 駐車場 / 196台(共有)
- アクセス / JR中津駅からバスで約10分
宮夫バス停から徒歩0分
- 受付時間 / 9:00~12:30、土曜~12:00/
月~金曜14:00~18:00
- 休診日 / 土曜午後、日曜、祝日
- 診療科目 / 整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科